

《開催概要》

1. 日時 2024年2月26日(月) 14:00~15:00
2. 場所 オンライン (Zoom) / JPタワー名古屋 37F D.forum1
3. 出席者 (敬称略)
《革新事業創造戦略会議 委員》
粟生 万琴 株式会社LEO 代表取締役CEO
石川 良文 南山大学総合政策学部 教授
内田 俊宏 中京大学経済学部 客員教授
鬼頭 雅弘 名古屋大学学術研究・産学連携推進本部 教授
佐藤 航太 名古屋商工会議所 産業振興部長
佐橋 宏隆 STATION Ai株式会社 代表取締役CEO
柴山 政明 愛知県経済産業局 経済産業推進監
山下 哲央 一般社団法人中部経済連合会 イノベーション推進部長

《議事次第》

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 題
 - (1) 革新事業創造戦略の推進について
 - (2) 戦略会議で採択した革新事業の進捗状況について
 - (3) その他
4. 閉 会

(事務局)

定刻となりましたので、只今から、第七回革新事業創造戦略会議を開催させていただきたいと思っております。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。今回はオンラインで開催いたしますので、委員の皆様には、事前に資料をデータでお送りしておりますが、画面上でも共有をさせていただきたいと思っております。

それから、今回の会議ですが、革新事業の審査対象案件がございませんので、広く一般に公開して開催することとしております。傍聴の方が4名いらっしゃいますので、報告させていただきます。

また、議事録の作成のために、会場の様子を録画させていただくということと、発言録につきましましては、後日、県のウェブサイトに掲載することをご承知おきいただきたいと思います。

それでは、早速、次第に沿って会議を開催していきたいと思っております。本日の会議の議題は、画面に提示してありますように、3つございます。一つ目は、革新事業創造戦略の推進につ

いて、二つ目は、戦略会議で採択した革新事業の進捗状況について、最後に、その他事項として、愛知県が仕掛けるスタートアップ・エコシステムの形成について、報告させていただきます。

開催要領の規定により、座長である中京大学の内田先生に進行をお願いしたいと思います。それでは最初に、内田座長からご挨拶いただきますようよろしくお願いいたします。

【座長挨拶】

(内田座長)

本会議の座長を仰せつかっております、中京大学の内田でございます。本日はよろしくお願いいたします。さて、最近、名古屋高速を走っておりますと、国内最大級のインキュベーション施設である「STATION Ai」の外観がほぼ出来上がりつつある様子が伺えます。そして、これと二本柱でこの革新事業創造戦略が並行して動いているわけで、それぞれ違う切り口からのアプローチですが、本県からイノベーションを生み出すために重要な役割をそれぞれ担っていると考えています。従いまして、本会議でも引き続き活発な議論をお願いしたいと思っております。

それでは、次第に沿いまして、まずは議題(1)について事務局より説明をお願いします。

<議題(1):事務局説明>

資料01に基づき説明

(内田座長)

ありがとうございました。引き続き議題(2)についてご説明いただきまして、議題(1)と(2)に関するご意見、ご提言をまとめて頂戴できればと思います。その後、議題(3)を柴山委員からご説明いただくという流れで進めていきたいと思っております。

それでは議題(2)について事務局からご説明をお願いします。

<議題(2):事務局説明>

資料01に基づき説明

【各委員発言】

(内田座長)

ありがとうございました。ただいま事務局から議題(1)と(2)についてご説明をいただきましたけれども、全体の議論の時間が10分程度ございますので、各委員からご意見やご提言、質問等ありましたら頂戴したいと思います。いつも五十音順で粟生委員からお願いしていましたが、今日は逆の順番でお願いしたいと思います。それでは、山下委員から議題(1)と(2)について何かお気づきの点がございましたらお願いします。

(山下委員)

ご説明ありがとうございます。活動内容がよく理解できました。

大きな取組としては、あいちモビリティイノベーションプロジェクトが挙げられますが、ワクワクするような提案であると感じました。また、あいちスポーツイノベーションプロジェクトも進行しているところかと思います。

最終的には、革新事業創造戦略として取り組む7つの領域において、どのような提案が出てくるかがポイントになると思います。今後についてお聞きしたいと思いますが、現段階において、モビリティまたはスポーツ以外の領域において、芽が出そうなプロジェクトはあるのでしょうか。

(事務局)

官民連携プロジェクトといたしましては、まず、革新事業創造提案プラットフォームから出てきたものということで言いますと、山下委員が仰ったとおり、あいちモビリティイノベーションプロジェクトと、あいちスポーツイノベーションプロジェクトになります。

ただ、官民連携プロジェクトとして、この革新事業創造提案プラットフォーム以外からも提案があり、色々なプロジェクトを進めています。それについては後ほど議題(3)のところで柴山委員が説明する予定ですので、事務局からは簡単に説明させていただきますが、今全部で5つプロジェクトが進んでおります。それが、あいちデジタルヘルスプロジェクト、あいち農業イノベーションプロジェクト、あいち環境イノベーションプロジェクト、それから、この革新事業創造提案プラットフォームから出てきたモビリティとスポーツです。

それから現在、革新事業創造提案プラットフォームとして、来年度以降、官民連携でタマになりそうなものがあるかということでございますけれども、こちらについては、現時点では提案はございません。しかし、やはり山下委員が仰ったように、7つの重点政策分野を掲げて、この戦略をしっかりと進めていきたいという思いがありますので、来年度以降も官民連携プロジェクトが立ち上がるように、しっかりと事務局として取り組んでいきたいと思っております。

(山下委員)

今回のA-IDEAのプラットフォームから創出されたプロジェクトと、それ以外のプロジェクトの位置づけの違いがよく理解できないので、その点を教えていただけますでしょうか。

(事務局)

実はその点について委員の皆様これまでしっかりと説明ができていなかったということで、その他のところで触れさせていただければと思っております。

(山下委員)

理解しました。ありがとうございます。

(内田座長)

山下委員からのご指摘の箇所については、この後、柴山委員から詳しくご説明をお願いします。

それでは続きまして、佐橋委員いかがでしょうか。

(佐橋委員)

議題(1)のスライド3を見ながら思いましたが、今日はどちらかという今年度の振り返りという趣旨もあると思います。全体的に私の感覚としては、一年でここまで進められたというのは、ポジティブに受け止めています。そもそも、それぞれ KPI (Key Performance Indicator) の目標値みたいなものはあったのでしょうか。

(事務局)

まず KPI 自体はこれまで設定しておりませんでした。これまで、全国初の取り組みということで、手探りで進めてきていることもあり、どれぐらいの件数登録があるかということも想定が難しかったところがあります。

そういった中で、この一年の評価としては、佐橋委員もポジティブに受け止めていただいていると思いつつ、ここからさらに二年目、三年目で同じように増えていくのかというと、今までどおりでは難しいだろうとっております。さらに A-IDEA を活性化するような宣伝を行うことで、認知を広げていく必要はあると感じております。

(佐橋委員)

ありがとうございます。今お話しいただいたとおり、二年目がある意味一番大事な気もするので、立ち上げが終わって、二年目もしっかり右肩上がりを維持できるようにするためにも、やはりまずは目標を立てていただく必要があると思います。

最終的にはどちらかという、KGI (Key Goal Indicator) の数字の達成のために、逆算でパイプライン上各目標値をどう置くべきかという観点で、来年度は明確に目標を立てた方が良いのではないかと思います。

そして、この見せ方も良いのですが、どちらかという、応募しても途中の審査で落ちていくものもあると思うので、いわゆるパイプラインで数字を見せる方が良いのではないかと感じました。

それからもう一点、これも同じような話ですが、アイデアの登録数というのは、これまでの累計の登録数という理解で合っていますでしょうか。

(事務局)

仰るとおりでございます。累計でございます。

(佐橋委員)

古いものも基本的には残っていくのでしょうか。

(事務局)

スライド4をしっかりと説明しておらず申し訳ありませんでした。このスライドの一番下に「アイデア・シーズの『鮮度』を維持するため、登録から一定期間経過したアイデア・シーズについて、登録者にリマインドメールを送付する機能を追加」とございます。これは、登録から一年を経過しようとするところで、登録していただいたアイデアやシーズについてこのままで良いか、ブラッシュアップするかをリマインドする機能です。実は、2月1日時点だとアイデアの登録は74件だったのですが、今日時点だと1件減って73件になっております。

そういった意味でも、こちらが表示上減っていってしまう可能性もあるので、しっかりと営業活動を図って、A-IDEAを活性化していかなければならないと思っております。

(佐橋委員)

理解できました。ありがとうございます。仰るとおり、古いアイデアがどんどん蓄積されていっても意味がないので、実効性のある、鮮度の高いアイデアを純増させていくためにも、数値目標はやはり持った方が良いのかなと思えました。私からは以上です。ありがとうございました。

(内田座長)

佐橋委員から数値目標を設定した方が良いというお話がありました。事業開始の初年度はこれまでの繋がりから登録者等を確保することが可能でしたが、二年目以降はより難しくなると思います。STATION Aiとの連携や数値的目標等に関して、二年目以降は積極的な取組による拡充をお願いしたいと思います。

それでは、続きまして佐藤委員、お願いいたします。

(佐藤委員)

今年度の結果として、会員数、アイデア、シーズの登録数が着実に増えているということで、これまでの取組に敬意を表したいと思います。

次に、あいちモビリティイノベーションプロジェクト、あいちスポーツイノベーションプロジェクトについて、どちらも非常に大きなチャレンジであると感じます。

まず、あいちモビリティイノベーションプロジェクトについてですが、参画している各ス

タートアップ・各企業にとって非常に重要な年になると思います。この事業は県を超えたチャレンジですが、許認可に関して国との協議はどうなっているか、また、愛知県としてどのようにサポートしているか、そして、事業開始から半年程度経過して、どういった課題が生じているか、教えていただければと思います。

(柴山委員)

事務局としてお答えさせていただきます。ドローンも、空飛ぶクルマも、空に関係する事業であり、これからクリアしないといけないこととしては、型式証明と、空域のルール作りがあります。例えば、主にテラ・ラボ社の取り組みですが、150メートル以上を無人機が飛行することについても、まだルールができていない状況です。そのため、国土交通省の航空局及び型式証明を所管するセクションに対して、最新の状況やどういったことが課題になっているのかを共有しています。

また、能登半島地震では、無人飛行機の有効性が示されました。150メートル以上を無人で飛行できることの有効性や空域のルール作りについて、航空局に対し強く要請を行ったところです。

次に、あいちモビリティイノベーションプロジェクトの「柱2」(次世代モビリティ産業の基幹産業化)についてですが、当事業を産業振興に結び付けるという目標がありますので、経済産業省に対しても詳細に話をしています。経済産業省からは、全面的にバックアップするとともに、関連のイベントを是非愛知県に誘致して欲しいという話もあり、国を巻き込む形でこのプロジェクトは進行しているという状況です。

愛知県としては、ルール作り、規制緩和等について、国としっかり協議しながら、調整項目として取り上げていただくよう進めていきたいと思っています。

(佐藤委員)

地元経済界としても、必要に応じ行政と共に国へ要望を出していくことも考えたいと思いますので、連携して取り組みを進めていけたらと思います。

また、あいちスポーツイノベーションプロジェクトについては、広い概念を有する事業であるとは思いますが、ビジネスチャンスを生み出すことや、スポーツを成長産業化させていくということに向けまして、スポーツ少年団や地域のクラブチームなど、そういった領域とのリンケージも意識して進めていただけるとありがたいと考えています。

(内田座長)

あいちモビリティイノベーションプロジェクトにつきまして、事務局からも説明がありましたとおり、ぜひ国と連携しながら進めていただければと思います。

続きまして鬼頭委員、お願いいたします。

(鬼頭委員)

ご説明ありがとうございました。私からは議題(1)について、少しコメントさせていただきます。事務局の説明で Tongali についても触れていただきありがとうございます。

A-IDEA は非常に洗練されたプラットフォームで、他にはないと思いますが、やはり登録する側と利用する側のモチベーションがないと、つまり、アクセスして検索しようとか、登録しようというモチベーションがないと、なかなか今後登録数を増やしていくことは難しいと思っています。やはり、先ほど話にあったように、このプラットフォームの利用を前提とするような補助金申請のシステムというのは非常に効果的だったと思います。

一方、補助金申請の際に、シーズがどれぐらい検索されたかということも興味があるところですね。できたらこのシーズの検索数などを、登録した方にフィードバックいただければ、どのシーズに関心があるのかということも分かりますし、逆に関心がないもしくは工夫しなければならぬシーズというものも分かるのではないかと思います。そういったフィードバックのようなものをいただければ良いと思いました。

また、シーズの登録についても、このフォーマットに合わせた登録をしなければいけません。本来一番望ましいのは、各大学で今持っている研究シーズのデータベースを受け入れることだと思います。少しハードルが高いかもしれませんが、例えば大学の同意があればそこにアクセスして、自動的に各項目を合わせ込んで整合するように取り込むことができれば、もっとシーズの登録が増えると思いました。

また、この AI のマッチングには非常に興味があって、何度か試しましたが、あまり合っていないものも提案されてきていますので、精度についてはもう少し検討されても良いと思います。以上です。

(内田座長)

ありがとうございました。鬼頭委員からご指摘があった点はまさにそのとおりだと思いますが、特にシーズ登録については、各大学のデータベース等からの取り込みができれば、登録数の増加が見込めると思いました。

シーズの検索数等に関する現在の分析状況はどのようになっているのでしょうか。

(事務局)

まずシーズを含めてプラットフォームの分析でございますけれども、今まさに始めたところでございます。先ほどの佐橋委員からのご質問にも関連しますが、これを来年度以降もさらに活性化するためにはどうしていけば良いかという視点でしっかりと分析してまいりますので、その中で、先ほど鬼頭委員が仰ったシーズの利活用の部分も分析していきたいと考えております。

また、システム上シーズをもう少し簡単に登録できないかというのは、予算の話等もありますので、できるところからやっていくという方針で、徐々に改善していければと考えております。

(内田座長)

ありがとうございました。鬼頭委員、よろしいでしょうか。

(鬼頭委員)

結構です。よろしく願います。

(内田座長)

それでは、続きまして石川委員、願います。

(石川委員)

報告をお聞きし、一年間しっかりと戦略が進んだと感じました。

まずもって、優れた提案の選定が最も大きかったと感じましたが、そのためにはプラットフォームがしっかりしていることが大事だと思います。プラットフォームについてですが、興味がある人が一度会員登録した後、プラットフォームが更新されたことに気づかないのではないのでしょうか。会員数も増えてきましたので、例えば、登録者に対しメルマガのような形で連絡を送る等、積極的にアプローチした方が良いと思います。私自身も3月のイベント(A-IDEA TRIGGER 3)を存じ上げなかったもので、メールマガジンを流していただけるとありがたいです。

また、イベントも3回開催し、非常に好評であるとお聞きしましたが、広報をどのように行っているのかが気になりました。大学生にも届いていると良いと感じました。また、県外や国外に対して広報することも有効であると考えます。

次に、プラットフォームのアクセス解析をしっかりと行って、ユーザーがどういったところに関心があるのかを分析していくことが重要であると思いました。

次に、令和5年7月に実施した革新事業創造事業費補助金に関する審査についてですが、42件の提出に対して9件が採択されています。落選者に対するフォローは行っているでしょうか。惜しい提案に対し、改善ポイントなどをアドバイスできると良いと思います。

また、採択された方に対するフォローはされているでしょうか。3月のイベントで進捗状況の報告をすると思いますが、書面でも良いので採択している9件の報告をいただけると我々の今後の審査の参考になるので、ありがたいと思います。

次に、あいちモビリティイノベーションプロジェクトについて、今後、この事業が実装された場合、社会に対してどういった効果があるのかを示していただくと良いと思います。地域を限定せずに色々なマーケットに進出したり、県外の企業とも技術交流したりすることが大事と思いますが、最終的に愛知県にとってどういったメリットがあるのかといったことも見据える必要があると思います。

そして、来年度には、事業化に向けた調査を予定していると思いますが、どういった調査をするかが重要ですので、マーケットの調査含め、調査企画をしっかりやっていただきたいと思っています。

(内田座長)

ありがとうございました。いくつかの視点でリクエストいただきましたが、ホームページに定期的にアクセスしてもらう仕掛けが重要ですし、イベントの告知等も含めて、定期的にプラットフォームのすり込みのアプローチは実施していただければと思います。

その他、今のご意見に対して、事務局から現時点で回答できることがあればお願いします。

(事務局)

まずプラットフォームについて、一回登録して終わりではなく、もっと積極的に会員にアプローチしていくべきというのは、委員の仰るとおりとっております。イベントも会員向けにメッセージを送ったりしていますが、見られない方もいるので、もう少ししっかりとメール等で伝わるようにしていきたいとっております。

会員にアプローチを進めるということで言いますと、やはり我々愛知県のイベントだけですと年3回と限られてしまうため、せっかく提供リソースやイベントも登録できるようになって皆様に発信できる機会ができたので、色々な支援団体や市町村のイベント等も定期的に発信していきたいとっております。

また、補助金の不採択案件をフォローしていくべきという点については、仰るとおりとっております。先ほど、柴山委員からも話がありましたが、結果が出れば、プラットフォームが活性化していくというのは、そのとおりだと思います。採択された案件はもちろん、採択できなかった案件についてもフォローしていくことが必要だと思います。全ての提案を一様にフォローできるというものではないのですが、芽がありそうなものについては、事務局の方で、システム以外のことでもブラッシュアップに貢献できるようにしていきたいとっております。そういった意味では、今年度の件数は多くはないですが、システム外のマッチングといたしまして、我々がフォローしたものが9件ございます。また、イベントがきっかけで企業同士が繋がったというケースも出てきておりますので、そういったものを次々と作り出していきたいとっております。

それから、採択案件については、先ほど申し上げた3月14日のイベントで5件発表していただきます。それ以外の案件についても、これまで既にイベント等を通じて発表する機会を設けさせていただいております。加えて、3月20日で補助金としての事業が一定の区切りを迎えますので、そこで一旦、補助金の成果ということでまとめます。それはまた、次回の革新事業創造戦略会議の場で発表させていただきたいとっております。

あいちモビリティイノベーションプロジェクトにつきましても、ジャパンモビリティショー等これまでも様々な場で発表しておりますが、来年度も引き続き発表する機会を設けて、継続してアピールしてまいります。

愛知県にどのような成果があるかという点では、この地域で次世代モビリティの基幹産業化をしていくことで、この地域にしっかりと成果が根付くようにしていきたいとっております。

(内田座長)

ありがとうございます。最後に粟生委員からご意見をいただいてもよろしいでしょうか。

(粟生委員)

一年前を思い出すと、A-IDEA のウェブサイトがセクシーじゃないということをお話しさせていただいたかと思うのですが、非常に刷新されて UI(ユーザーインターフェース)も使いやすいくて、素晴らしいと思います。愛知県の皆さん、一年間本当にお疲れ様でした。結果として、エントリー数が上がったのは、非常に素晴らしいと思います。

私からは、「アイデア 愛知県」で検索すると、どうしても他の情報が上がってくるので、SEO 対策はされてはいないと思うのですが、このサイト自体の認知が上がれば、必然的に検索もしやすくなり、Google で検索しても上に上がってくると思いました。

本質的なプロジェクトの件ですが、もうすぐ A-IDEA TRIGGER 3 の募集・広報を Meet up Chubu と連携して行われるということだったのですが、愛知県内だけの告知にとどまらず、愛知県が非常にイノベーションに先進的に取り組んでいるということ、できれば東京などのイベントでも発表されると良いと思います。あいちモビリティイノベーションプロジェクトも、あいちスポーツイノベーションプロジェクトも含めて、愛知県がスポーツやモビリティの先進県で、このようなことに取り組んでいるということ、東京のイベントで発信することで、さらにエントリーも増えるのではないかと思います。これはアドバイスです。

先週、参議院の森本委員長をはじめとした経済産業省のご一行が、なごのキャンパスにご視察に来られた時に、「STATION Ai のことは大村知事も PR しているから霞が関に伝わっている」と言っていたのですが、逆にどういうイノベーションを創出しているのかまだ見えていないという話がありました。ここは、A-IDEA と A-IDEA TRIGGER と革新事業創造戦略事業の認知も合わせて、事務局はトーマツだと思いますが、東京のチャンネルを活かして、もう少し東京や海外に愛知県の取組を積極的に PR することで、先ほど佐橋さんも仰っていたよう二年目にしっかりした軸が作れると思いました。

(内田座長)

ありがとうございました。Google や Yahoo 検索の上位にヒットするような対策や、トーマツの協力等もいただきながら、東京や世界に向けても情報発信することを意識していただけだと思います。

それでは、最後になりますが、その他として、柴山委員から、愛知県が仕掛けるスタートアップ・エコシステムの形成についてご説明いただきたいと思います。

<議題(3): 柴山委員説明>

スタートアップ・エコシステムの形成について説明

(内田座長)

時間が少ない中、ありがとうございました。それでは、以上で本日の議題は終了といたします。

今回の戦略会議では、今年度の進捗状況の振り返りを行いました。補助金事業を見ましても非常にポテンシャルの高い事業が含まれております。

また、あいちモビリティイノベーションプロジェクト、あいちスポーツイノベーションプロジェクト等の5分野のプロジェクト推進についても、革新事業創造戦略にマッチしていると感じているところです。

なお、あいちモビリティイノベーションプロジェクトの方は始動時期が早いこともあり、かなり具体化していますが、あいちスポーツイノベーションプロジェクトについても2025年のIGアリーナ開業、2026年のアジア・アジアパラ競技大会に向けて具体化を進めていただければと思います。

それでは、予定時間を10分近く超過してしまいましたけれども、本日の議題は全て終了いたしましたので、進行を事務局にお返しします。

(事務局)

熱心なご議論をいただきまして、ありがとうございました。また、少し時間を超過しまして、大変失礼いたしました。

革新事業創造戦略事業は、今年一年目、来年二年目ということで、一年間色々と立ち上げてきたところでございますけれども、先ほど委員の皆様から言っていただいたご意見をまとめますと、やはりまず県としてきちんと戦略的に目標を持つ、そして参加していただいた皆さんにメリットを感じていただけるようにフォローアップをしていく、さらに、その取組の具体的な内容を広く皆さんに発信し、理解していただく、そういうステップを来年踏んでいきたいと思っております。

特に来年、ご案内のとおり、10月にSTATION Aiがオープンするというのは絶好の機会と考えておりますので、その機会も活かしながら、革新事業創造戦略とスタートアップ戦略を両輪として、イノベーション創出に取り組んでいきたいと思っております。

また、議事録の確認等、委員の皆様をお願いいたしますけれども、引き続きよろしく願います。来年度の戦略会議については、大体6月頃開催予定ということで、その周辺で日程の調整もさせていただきたいと思っております。

時間超過しまして大変失礼いたしました。これをもって、第七回の革新事業創造戦略会議は終了したいと思います。本日はどうもありがとうございました。